

日々の暮らしに

香川芳子

女子栄養大学学長



第二次世界大戦のときのお話です。戦地で重傷を負い、もう助かるとは思えない状態の兵士がいました。「死ぬ前にひと口だけパイナップルの缶詰めが食べたい」というその兵士の最期の願いを聞き届けようと、入隊前に調理人の経験があった衛生兵が、その場にあるもので苦心してそれらしきものを作って食べさせたのだそうです。すると兵士は「ああ、おいしい」といって食べ、その後、驚異的な回復をして元気になり、無事日本に戻りその後の人生をまっとうすることができたのです。

込まれて自殺を意識するようになってしまったときでも、なにかのきっかけによって、奇跡的に回復することがあります。そして生きる意欲を見いだして前向きな思考になり、元気をとり戻していきまします。ふだんあたりまえの行為としてなにげなく口に行っている食事ですが、そのときの置かれた状況により、そのひと口が人生を左右するほどの大きな意味を持つことがあります。その人にとっておいしいと感ずる食べ物や懐かしい食べ物などが、再びその人の心身を奮い立たせるきっかけになることもあるのです。気持ちを立て直し、明日に向かう大きな力を蓄えていくことにもつながります。

ひと口の食べ物が  
心身を活発にし  
生きる意欲を高めます